

【医療・福祉業への就職者】

9.4%

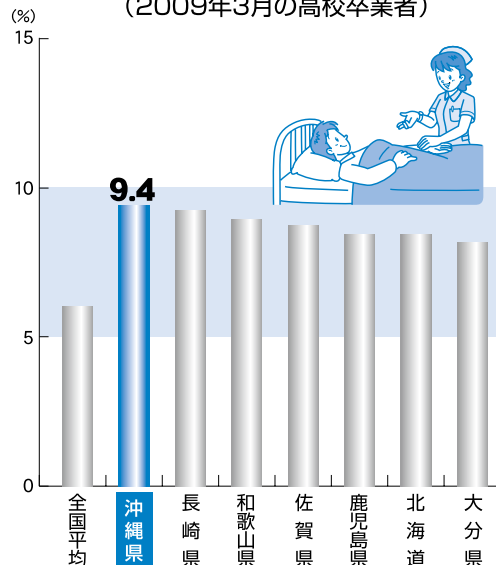
本、そろばん、筆、お金、赤飯…。  
沖縄で満1歳の誕生日に行われるタンカースージ。子供が無意識に選んだモノを見て、親や親せきが子供の成長を願う行事だ。

一方、高校生が自分の将来を意識して仕事を選ぶ状況は？文部科学省「2009年学校基本調査」によると、県内の高校生が医療、福祉業界へ就職した割合は9.4%と全国1位。不況で就職率が低迷する中でも医療、福祉業への就職者は増えている。もちろん、観光立県の沖縄は宿泊、飲食業への就職はダントツに多い。

出身学科をみると、主に介護系の職種だろうか。沖縄でも今後急速に高齢化が進む。需要が高い仕事だが、離職率も高いのが介護職。行政と事業者が協力して、労働環境の改善に努めている。高校生が自ら選択した仕事。応援したいと思う気持ちは、親以外でも同じであろう。

(海邦総研事業支援部/金城智裕)

医療、福祉業界への就職者割合  
(2009年3月の高校卒業生)



【自主防災組織カバー率】

5.7%

沖縄に梅雨前線が停滞するこの時期、長雨や局地的な豪雨による土砂災害や河川の増水などへの警戒が必要となるが、地域としての防災体制は十分とはいえないようだ。

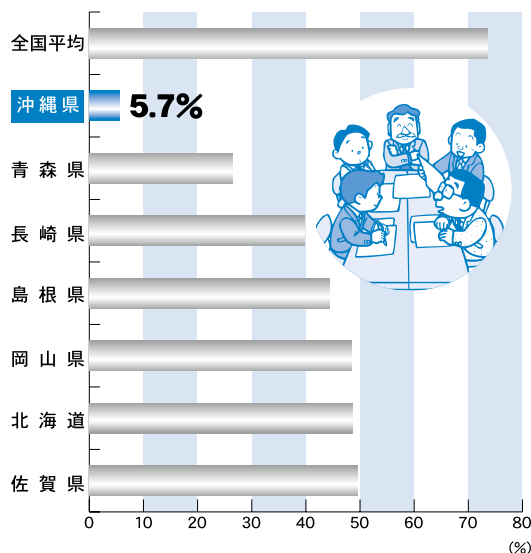
消防庁の「消防白書」によれば、沖縄県の自主防災組織活動カバー率は5.7%と全国最下位。カバー率が1ケタ台なのは沖縄県のみであり全国平均に比べ大きな差がある。

自主防災組織とは地域住民が「自分たちの地域は自分たちで守ろう」という連帯感に基づき自主的に結成する組織のことであり、災害の際の活動計画を作ったり、住民の避難誘導や情報の収集・伝達などの重要な役割を担う。

今年に入りいくつかの地域で自主防災組織を発足させたという話題もある。今後も増え続けていくことを期待したいものだ。

(海邦総研事業支援部/比嘉明彦)

自主防災組織の活動等カバー率  
(2008年)



【一世帯あたりピーマン消費量】

3,348グラム

今では日本人になじみ深い野菜のひとつピーマン。明治初頭、アメリカから日本に伝わったといわれている。子どもたちには敬遠されがちのようだが、様々な料理に利用されるので食卓に上る機会も多い。

沖縄県内での消費量はどうか。総務省「家計調査」によると、那覇市のピーマン消費量は一世帯あたり3,348グラムと全国で2番目に多い。

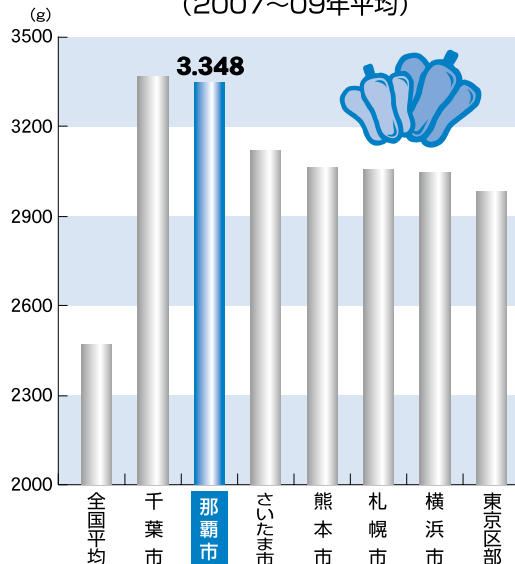
ちなみに3,000グラムを超えているのは8市。全国1位の千葉市は3,368グラムと那覇市との差は僅かだ。

ビタミンCが豊富なピーマン(1個あたり約80ミリグラム)。加熱してもほとんど含有量が変わらないので、青椒牛肉絲(チンジャオロースー)などに代表される炒め物には最適の野菜だ。

梅雨が明ければ、海辺でのバーベキューなど、夏野菜ピーマンの登場機会もさらに増えるのでは。

(海邦総研経営企画部/新里治史)

一世帯あたりピーマン消費量  
(2007~09年平均)



## 【サンマの年間購入額】

# 1,805円/世帯 (2人以上の世帯)

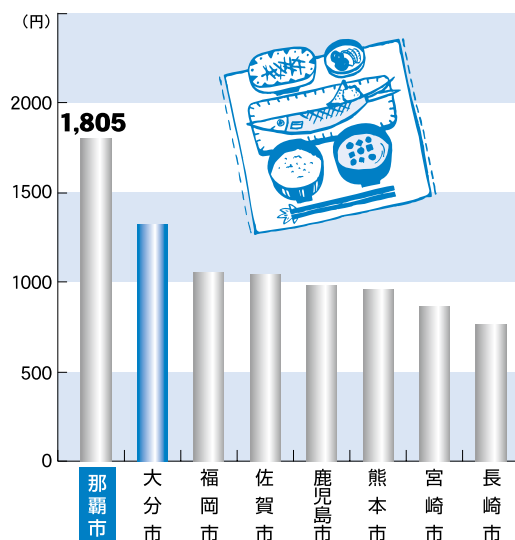
秋を代表する魚として知られているサンマ。冷凍物であれば年中スーパーで購入することができる。沖縄県における魚介類の購入額は全国最下位である中、サンマは私たちにとって人気のある食材のようだ。

総務省の「家計調査(2007～2009年平均)」によると、1世帯あたりの那覇市のサンマの年間購入額は1,805円(2人以上の世帯)。九州・沖縄地区の県庁所在地のなかではトップ、全国の県庁所在地の中でも8番目に多い額となっている。

夏から秋にかけて北海道から東北の太平洋側で多く水揚げされ、特に旬ものは油がのっておいしく生活習慣病を予防するEPAやDHAが多く含まれているサンマ。今年も生の新鮮なサンマが店頭に並ぶのを、今から楽しみにしている方も多いのでは？。

(海邦総研人材開発部/喜納健)

サンマの年間購入額  
九州・沖縄地区県庁所在地(2009年1世帯あたり)



## 【空き家率】

# 10.3%

伊是名島、渡名喜島、宮古島など離島を中心に、空き家となった瓦屋根の古民家を改築し、宿泊施設として利用する取り組みが注目されている。京都の町家ブームの流れもあり、観光客からの人気も高いという。

2008年の総務省「住宅・土地統計調査」によると県内の空き家率は10.3%と、全国で最も低い。一方で空き家率が高いのは山梨県20.3%、長野県19.3%など別荘が多い地域だ。前回調査(03年)と比較して全国的に空き家は増加傾向にあり、稼働率の向上は多くの地域で重要な課題となっている。

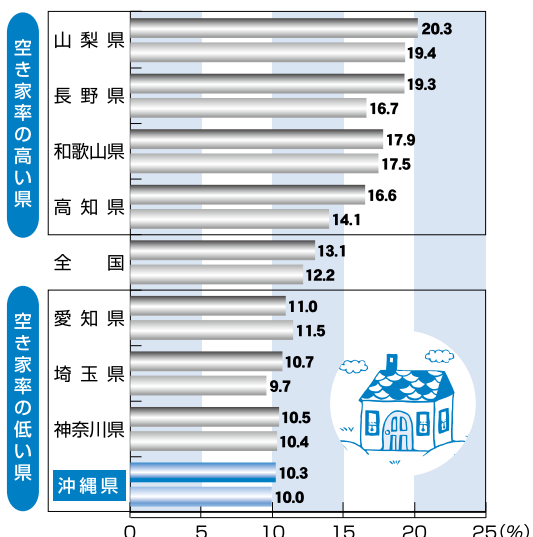
県内でも、空き家率が低いとはいえ、本島北部や一部の離島などの人口流出が進む地域では空き家の増加が目立っているようだ。

県を中心に古民家保全・再生・活用の動きも始まっている。地域の知恵が集結され、空き家が魅力的な観光資源に生まれ変わっていくのが楽しみだ。

(海邦総研経営企画部/大井佐和子)

空き家比率

上段:2008年調査 下段:2003年調査



## おきなわデータ算歩 けーざい100

「データ算歩」は県内でよく話題になる事柄を具体的に数字で裏付けて紹介しようと試みたもので、経済・数字の世界をまさに算(散)歩感覚で楽しみましょうという内容です。

「食生活」「生活・消費」「産業」「住環境」など八項目に分類。漫画やグラフを使い、見開き2ページで1項目を説明しています。アイスクリームやビールの購入額が全国一低いなど意外と思える数字も紹介。読みたい項目から読めるよう工夫しています。

沖縄県内各書店やインターネットでもご購入いただけます。沖縄けーざいを易しく知りたい、興味のある、という方に特にお勧め!

<http://www.kaiho-ri.jp>

